

令和4年度伊豆の国市環境審議会（第2回）

議事録

開催日時	令和5年3月17日（金） 13:30～15:30
開催場所	伊豆の国市大仁庁舎2階 第1・第2会議室
出席者 （委員）	小嶋会長、神田委員、児玉委員、瀬本委員、竹口委員、近田委員、西島委員
配布資料	<ul style="list-style-type: none">・次第・令和4年度第1回伊豆の国市環境審議会議事録・令和4年度第1回伊豆の国市環境審議会 瀬本委員意見・第1次計画の数値目標の評価・第2伊豆の国市環境基本計画・骨子（案）・第2次伊豆の国市環境基本計画（案） 2023(令和5)年3月
<p>(1)開会 事務局の進行により開会した。</p> <p>(2)挨拶 経済環境部長より、挨拶を行った。</p> <p>(3)議事 「第2次伊豆の国市環境基本計画について」 ①第1次計画の評価について（報告） ②計画の骨子（案）と「第3章 計画の目標」について ③第5章 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）・気候変動適応計画」の概要について 議事①②③に関して、事務局より配布資料の説明を行った上で、委員に対して発言を求めた。 ※委員発言、市からの回答は別紙のとおり</p> <p>(4)その他 次回会議は令和5年7月26日に開催する。</p> <p>(5)閉会</p>	

令和4年度伊豆の国市環境審議会（第2回）に関する委員意見のとりまとめ

1. 開催日時・場所

日時：令和5年3月17日（金） 13：30～15：30

場所：伊豆の国市大仁庁舎2階 第1・第2会議室

2. 委員意見一覧「第2次伊豆の国市環境基本計画について」

①第1次計画の評価について（報告）

	委員発言	対応方針
1	ごみの排出量は減らないと思う。今の生活をしている限りごみが出る。資源回収したものをごみの合計から減らさないとごみは減らない。最終的に市が処理するごみでないと指標にならないのではないかと。リサイクル率も民間業者が持って行ったら、市のリサイクル率が下がっても、どこかでリサイクルされればよいと思うので、少し考え方を考える必要がある。	次期計画を策定する際には、ごみの排出量やエコアクションへの補助の在り方についても検討を進めていく。
2	エコアクション 21、ISO14001 についても、事業者もお金もかかり、面倒なので1回限りの補助金だと、事業者としてはメリットがないと進まない。工事などをするときには総合評価方式を使って入札加点をすれば、市内の事業者は一生懸命やることになるので、メリットの方向性を考えないとやってくれないだろう。	
3	民間業者によるリサイクル率を把握することはできないか。	リサイクル率は、民間業者を含めたリサイクルの全数を出すことは難しいが、学校・地区などの集団回収については、実績値を示すことはできる。県内でもリサイクル率は高い方である。
4	クリーンセンターいずで新しい処理方法になると、過去の実績値と傾向が変わると基準が変わるため、新しい処理方法による実績値に合わせた目標値を検討するとよい。	

②第1章 計画の基本的事項②計画の骨子（案）と「第3章 計画の目標」について

	委員発言	対応方針
1	望ましい環境像は、案①でも案②でも両方とも良いと考える。	伊豆の国市の特性を踏まえた将来像、重点取り組みを検討する。
2	基本方針の脱炭素社会の実現について、市民を巻き込んでどのようにやるか。伊豆の国市としてできることは限りがあるが、どういうふう施策を考えるか、重点施策をにらんだ対応を検討するとよい。	
3	脱炭素に向けてジャンルが広いと思うが、個々の家ではできることについて限りがあるが、伊豆の国市として重点的に1つか2つか挙げて市民の人に協力してもらい、アピールするものがあるとよい。太陽光なども提案したが、伊豆の国市として何をすれば、脱炭素社会に貢献できるかを検討するとよい。	

	委員発言	対応方針	
4	太陽光について、中部電力から買った電気と売った電気を引くと、1年間で3.26kWの容量しかつけていないが、実質は152 kWhしか使っていない。CO ₂ でいうと、59.552 kg-CO ₂ しか出していない計算となる。各家庭に3~4kWの太陽光をつければ格段にCO ₂ が減るので、太陽光を各家庭でやってもらうのがよいと思う。初期投資ゼロでつける方法についてもあるそうなので、制度として検討するとよい。蓄電池も付けたので、台風の時も電気に困らなくてすんだ。	伊豆の国市の特性を踏まえた将来像、重点取り組みを検討する。	
5	SDGsについて積極的に取り組んでいる市町は多い。伊豆の国市らしいSDGsの取り組みをどう考えていくかを検討してもらいたい。		
6	望ましい環境像について、どこが伊豆の国らしいのかを事務局で検討してもらいたい。伊豆の国市は移住者が増えている。望ましい環境像もそういう人に魅力的なものにしたい。伊豆の国市の特徴となる言葉がないと、伊豆の国市とは何なのか、交通の便も悪くないし、韮山高等学校、伊豆中央高校もあり、反射炉も含めて、世界に誇れる場所がある。そこを環境教育のところにどう活かすか、学校の先生方に環境教育を勉強してもらう。学校教育の現場でどう進め、地域社会とどう連携するのか、先生の力を借りる必要がある。先生が転勤したとしても、伊豆の国市は何なのかを評価してもらいたい。		
7	環境問題なのだから、隣接する関係市町とどういうふうに連携をとりつつ、伊豆の国市はどう特徴に出すかの話にしてもらえるとありがたい。		
8	脱炭素、カーボンニュートラルを全面に押し出すとしたら、カーボンに的を絞って話をしないと本当の意味での環境対策にならない。実際には難しいが、本当にカーボンニュートラルをやるというスタンス、根性を決めてからやらないといけない。方針の1番目が脱炭素社会でよいのかということにもなる。そもそもソーラーパネルを作るのに二酸化炭素がどのくらい発生しているか。全部足して、プラスマイナスを検討するとよい。本当のところそのバランスが取れているのか。		ソーラーパネルだけでなく、再生可能エネルギーを導入して2050年カーボンニュートラルを実現するというのが世界の動き、政府の方針である。その中で伊豆の国市として何ができるかを検討するということがよいと思う。基本方針の第1として、脱炭素社会の実現が来るのでよいと思う。(会長)。
9	カーボンニュートラルは国が言っているので、やらなくてはならないが、実際に企業としてやろうとするとお金がかかるので、非常に難しい。		
10	農業委員会でも今の農業は大変だが、もう一回、自分たちの地域を見直して魅力ある地域を作ろうとしている。新規就農者(いちご、トマト)がいて、設備投		

	委員発言	対応方針
	<p>資とか、そんなに収益が上がらないが、将来の夢を語るような活動をしないと失礼だし、生産者だけでなく、地域で応援・補助、そういうことが含まれば河川清掃があって、だからこの町は良いまちななのという考え方を持って、将来の夢が語られるような行動をしよう、活動しようということを訴えてもらいたい。河川の清掃にもすすんで参加してくれるのではないかなと思う。こんなことができるんだから減らしましょう、こういうことをやっている伊豆の国市という、将来性のあるような夢を持たせるような計画策定をお願いしたい。</p>	
11	<p>きれいな田園風景の向こうに、富士山がきれいに見えるのに、電線がたくさんあり、景観を阻害しているので、電線の地中化をお願いしたい。</p>	<p>令和5年度に施策の検討を行う。</p>

③第5章 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）・気候変動適応計画」の概要について

	委員発言	対応方針
1	<p>P57の米の品質については、「何日です」というのは、結論を言っていない気がする。40日以上にするとコメの品質が下がるという文章を先にしたほうがよい。</p>	<p>表記を修正する。</p>
2	<p>第2節はもっと簡潔に示してもよい。P46のIPCCのシナリオを見てもわかりにくい。④地球温暖化による影響について、身近な影響について言えるとよい。伊豆の国市の取り組みはこれでよいが、P53の一般廃棄物焼却処理量については、推計方法を入れ替えないといけない。伊豆の国市は家庭部門が多いので、家庭の部分をどういう風にやっていくかがポイントである。</p>	<p>パリ協定は気温上昇2℃未満を目標としており、カーボンニュートラルを目指していることから、RCP2.6を目指しているといってもよい。 数値目標については、国や県と方向性を合わせることになる</p>
3	<p>気候変動の将来予測については、伊豆の国市としてどこを目指しているのか読み取れないので、目指しているところを記載するとよい。</p>	<p>が、取組については来年度、ご議論いただくことになる。</p>
4	<p>予測とか影響とかをうたっているが、数値目標や取り組みはまだ出ていない。</p>	